

執筆者紹介

埋田重夫（静岡大學學術院人文社會科學領域教授）

原田信（近畿大學經營學部講師）

稲畑耕一郎（文學學術院教授）

陳竺慧（博士後期課程在學中）

楊駿驍（博士後期課程在學中）

高山亮太（博士後期課程在學中）

野田寛達（名古屋商科大學コミュニケーション學部講師）

編集後記

◇『中國文學研究』第四十一期ができました。お世話になった査讀の先生方や印刷所各位そして執筆者諸氏に心からお禮申しあげます。今回は論文數こそ少ないとはいえ、白居易詩、清代詩經學、傅增湘の文章、江戸時代の詞、「微電影」、文字學、文法というように、バランスの取れた陣容となりました。

◇「微電影」もそうですが、最近「微」のついた言葉を多く見かけます。ミニブログ「微博」や中國版LINEのウィチャット「微信」と関連して、「微友」「微聊」「微店」「微商」などの語が出てきただけでなく、「微音樂」や「微服務」も出現、「微愛」という映畫さえあります。昔は「微詞」「微不足道」などあまり良いイメージがなかったのに、今はなぜこんなに「微」がもてはやされるのでしょうか。

◇正解（？）については関連論文を読んで頂くことにして、ここでは「宏微兼顧」という四字格を紹介したいと思います。「宏觀」と「微觀」すなわちマクロ的な視點とミクロ的な視點を兼ね合わせた科學研究の方針を表したもののらしく、中國文學や中國語學の研究にとっても有用な言葉だといえましょう。少し調整すれば中國文學會の標語に加えるかも知れません。古今兼學、語文雙修、微宏並顧……。でもちよつと語呂が悪いですか。